

先ず LtE の中から、Sam WHITBY 氏のお便りを抜粋する：

" I am sorry for the loss of Mr Tsuneo Saheki. As you probably know, he also was an early contributor to the Mars Section of the ALPO, adding some his status as an observer to that organization. His observation of an unusual gray cloud on Mars in 1950 has become part of our folklore, and I am sure that other observers in this part of the world also mourn his loss. . . . I sometimes relax by thumbing through old issues of Sky and telescope at the RAS Observatory. Yesterday I found and re-read an article on Mars in the Feb 1955 issue. The article included drawings by Ebisawa, Antoniadi and Maéda, as well as the author's. . . . (9 April 1996) "

他に三月 25 日に 7 × 50 の双眼鏡で百武 (Hyakutaké) 彗星を見たことなどがある。

LtE には他に日岐氏が佐伯先生ご逝去に関して OAA 編集部へ弔文を送ったとある。成田氏には火災で失った CMO 舊號を四十三冊を送ったらしく、その礼状がある。松本直弥氏の LtE には 22Mar の百武の写真がカットとして入っているが、印刷では尾が潰れて仕舞って申し譯ない。135mm と 400mm レンズに Fujicolor G800 である。海外からは WARELL 氏が北極冠の測定について、また AKP の NIECHOY 氏から一通、最後は Mk 氏の 23Apr の LtE だが、未だ暖房が必要と書いている。百武彗星は 15Apr 以降は捉えられないそうである。

扱て、巻頭は 1994/1995 Mars Note (10) で "Mere Hellas but No Mean Hellas" として $\lambda = 062^\circ$ Ls から 125° Ls までの CMO の観測を集めている。いつから Hellas が白く輝くかという問題であった。メインディッシュは「ときどき Something Old」(懐かしい)の(9)で、"The npc in the early 1980s observed at the Kwasan and Hida Observatories"。岩崎恭輔氏から頂いたレプリントにより解説したものである。圖が七枚あり、P B JAMES 氏達の結果との比較もあるので、これはこれから北極冠の季節を迎えて再読を奨めたい。もし、原稿が FD か何かに保存してあれば Web に載せたいと思っている。

Ten Years Ago は(4)となって、浅田正氏編集の 1986 年の#006 と#007 を村上 (Mk) 氏が紹介している。これは Web に出ているが、#007 巻頭の「ヴァイキングの捉えた南極冠の様相」というのは浅田氏から最近送られて来た昔のファイルに残っている様子なので、廿周年企画として Web で再現したいと思っている。#006 には松本直弥氏の 10May1984 ($\lambda = 145^\circ$ Ls) の火星写真からアルバ邊りの白斑の解析があり、これについて Mk 氏が感想を述べている。1986 年の火星は既に $\delta = 10''$ に達しているようだが、観測は少ないとある。季節は $\lambda = 147^\circ$ Ls ~ 162° Ls。折しもハレー彗星の時で、Mk 氏は 12Apr1986 に真鶴に出掛けたが、春霞の夜空に頭だけぼんやりと捉えただけとある。筆者の臺北では未だ四月というのに蚊取り線香を用意したとあるそうである。